

高い空と吹く風に秋の心地よさを感じます。保育園・幼稚園に通っているお子さんは、運動会を終えられた方、間近に控えられた方、いろいろおられると思います。また、これからの時期は活動しやすい気候となり、園外保育や遠足なども増えてくるのではないのでしょうか。秋の行事や自然を満喫できるといいですね。

お知らせ

【土曜療育相談について】

10月の相談日は10月6日の午前中の予定です。

- ① 9:00～②10:00～③11:00～ (予約制です)

ご希望の方はお気軽にご連絡ください。



【午睡について】

年少と年中のお子様は、在籍園での午睡の有無にかかわらず、原則として午睡時間を設けています。

年長児については、在籍園の生活の流れをなるべく崩さないように園の午睡の有無をお聞きしながら、socioでの午睡を終了するタイミングを決めています。すでに午睡をしていないお子さんもおられますが、園によってなくなる時期が違いますので、園での午睡がなくなる時にはスタッフにお知らせください。

先日、とある学術集会に参加してきました。『生まれてきてくれてありがとう～子どもに伝えたい、あなたのために～』というテーマのもと2日間にわたり、たくさんの先生方のお話や研究発表を聞いてきました。胸を打つワードや、はっとさせられるお話があり、子育て期の母親の1人として、この話を1人でも多くの方に伝えたいと思いました。

言語聴覚士中川信子先生の講演より

全ての人の“いのち”は『預かりものの“いのち”』

“いのち”は、育ててくれる人、助けてくれる人がいることを前提とした“いのち”

“いのち”は助けられながら育てるもの

生まれてすぐに1人で立ち、自力で母親の乳房を探して飲む動物とは違います。人間は生まれた時から1人では生きられないし、養育されて大人になります。今、大人になっている私たちも1人で育ったわけではなく、育てられて大人になっています。“いのちのバトン”はつながっているというお話です。動物の多くは1人で子育てをしますが、人が1人で子育てすることは無理があり、単独育児・密室育児になると問題が起きてきます。私たち、人が子育てをするためには「育てる人」を「助けてくれる人」が必要なのです。

「助けて」と言える子

「助けて」と言った子に素直に手を差しのべられる子 を育てていこう

(確かに・・・「助けて」と言っても助けてくれる人がいないと、「助け」にはならないですもんね)

また、中川先生は育児とは

「子育て」ではなく「“子育て”を手伝うもの」なのではないか、と言われました。
深い言葉ですね。

明星大学教授星山麻木先生のお話より (中川先生の話を受けて)

大切なこと

- ① 「助けて」と言えること
- ② 手をさしのべる人がいること **2倍大事**
- ③ 人と違うことは「弱み」ではなく「強み」と思えること **3倍大事**

～この話を聞いて、「1人で抱え込まなくてもいいんだ」「できないことやうまくいかないことはダメなことではないんだ」「1人だとできないけれど・・・助けがあったらできるかもしれない」「みんなが誰かの助けになれる存在」などいろいろな思いを巡らせました。～

